

但馬信用金庫の取り組みについて

～地方だからできる、

顔の見える関係を活かした取り組み～



但馬信用金庫

Welcome to TAJIMA SHINKIN BANK

地域の皆さまに愛され、信頼される金融機関 — 街のふれあいステーション

営業エリアの概要 (データはすべて2018年3月末時点)



預金残高、貸出金残高、店舗数、役職員数(パート含む)

4,406億円、1,743億円、29店舗、375名

兵庫県北部
但馬(たじま)地区
(豊岡市・養父市・朝来市
香美町・新温泉町)
人口 163,756人
店舗数 24店舗

但馬の3市2町いずれに対しても、
当庫は指定金融機関ではありません

姫路市
人口 531,526人
店舗数 3店舗



京都府北部
(京丹後市・福知山市)
人口 134,114人
店舗数 2店舗

豊富な地域資源

: 金融機関として、消費者・住民として
広く・深く知る。強みと課題も把握する



地域金融機関が限られた経営資源の中で、個別企業の支援に加え、面的な地域プロジェクト支援にも取り組むには、特にどの業種に注力するかを予め検討する必要がある。当庫は「基盤産業」にフォーカス

当庫が考える地域プロジェクト支援のポイント



一つのプロジェクトのみで地域の活性化は実現できない。
⇒同一地域で複数のプロジェクトを展開し、活性化につなげる。

プロジェクト間のシナジー効果発揮にこだわる。
⇒まずは一つのコアとなる地域プロジェクトを生み出す。

どの地域にも優れた地域資源はある。しかし、それだけでは他地域と差別化できない。その地域がどういう特性を持ち、外部からどのように見られているかをよく理解する。
⇒そのために、地域内部と地域外部の人の連携が重要。

地域プロジェクト支援は参加者(巻き込まれる側)目線だけでは十分に行えない。
⇒マインドと行動の両面で「仕掛ける側」にまわることが重要。

当庫が考える地域プロジェクト支援のポイント



地域プロジェクトの推進には、地域内と地域外のプロデューサーの連携が必須。
地域金融機関は地域内プロデューサーを目指すべき。
地域外プロデューサーは案件や関わる人たちとの相性があるので、特定の人・組織に固執せず、都度、最適な相手を選定。
⇒地域外プロデューサーがいないと井の中の蛙になりがち。
⇒地域内プロデューサーがいないと利害関係者間の調整が難航する。

地域プロジェクトには多様な利害関係者が参画する。よって、意思決定に時間がかかる。途中で立ち消えになるものも多く、スケジュールが立てにくい。
⇒これを前提に「気の長い取り組み」を実施する。

担当者のモチベーションが全て。「やる気」を「使命感」にまで昇華できるかどうか。
⇒まずは一つの小さな成功体験を生み出す。

但馬の小京都 出石(いずし)



関西を中心に知名度があり、
年間80万人程度の観光客が来訪



但馬の小京都 出石(いずし)



カード決済端末機を導入している店がほとんど無く、
土日のお昼の繁忙時に出入り口付近のレジが
混雑することで機会損失が発生

メニューに広がり無く、客単価をあげにくい

町なかを周遊する仕組みが弱く、平均滞在時間も1時間程度

(株)クレディセゾンと連携し、
出石皿そば協同組合の組合員
等にカード決済端末機の導入
提案。30軒程度導入

出石そば 新メニュー開発支援



<現状>

出石そばのウリ=三たて
(挽きたて・打ちたて・ゆがきたて)

そば粉
北海道産・九州産多数

食文化としての定着度
地元民は頻繁には
食べていない

<課題>

おいしいが、
日持ちせず、
ロスになりや
すい

「当地ならではの」
をウリにしにくい
(器は出石焼)

食文化として
十分には定着
していない

<対応の方向性>

- ①日持ちする
- ②地元食材を活用
- ③食文化として定着
(地元の味噌・しょうゆ・
漬物・ノリなど)

を満たす
新メニューを検討

料理人とのコラボレーション



発酵王子 伏木 暢顕(ふしき のぶあき)氏とのコラボ



1975年 東京都生まれ

醸造料理人であり、日本の発酵食文化传承人

著書・メディア出演多数

最近、NHKのEテレで藤原紀香さんとも共演

地元食材を活用した新しいサイドメニュー
(発酵料理の小皿メニュー)開発により
出石そばの魅力・そば屋の魅力を
一層強化できるのではないか？

豊岡市出石町の城下町が誇る「出石皿そば」の薬味といえば、何を思い浮かべるだろうか。ネギやヤマイモ、生卵などが定番だが、出石皿そば協同組合（豊岡市出石町宵田）が、そうした定番に加わる新メニューの開発に取り組んでいる。地元食材を使い、コース料理風に、皿そばに合う小鉢料理をそろえる。来年冬の商品化を目指しており、同組合は「次世代の出石皿そばを提案したい」と意気込む。（阿部江利）

次世代の皿そば提案を



新しい「出石皿そば」のメニュー案を試食する女性たち＝豊岡市出石町魚屋

来冬の商品化を目指す

出石の協同組合 コース料理風の 新メニュー開発

同組合の田中藤一郎理事（長50）によると、出石焼の小皿にそばを盛り付け、卵などの薬味を添える現在の形ができたのは、40～50年ほど前だという。町が「小京都」として活気づくにつれて皿そば店も増えたが、最近では客がそばを食べてすぐ帰ってしまう、滞在時間が短くなる傾向があるとい

年から対応策を検討し始めた。新メニュー案は、こうじなど発酵食品プームの立役者の一人で、発酵料理人の伏木暢顕さん（42）＝東京都＝が同組合の依頼を受けて考えた。伝統を生かしながら、新しい楽しみ方を提案するのが目標で、現在も試作を重ねている。

このほど出石町内で、但馬を中心とした女性らを対象にした試食会が実施された。発酵食品の料理やデザートなど20種が、少量ずつ小鉢やおちょこに盛り付けられ、皿そばと一緒に提供された。薬味は「飽きのこない味」という酸味がある古

漬けのたくあん、「エスワサビ」など。小鉢も西京漬のマスや山椒バター味の但馬牛ステーキ、野菜の焼きびたしなど、多彩なメニューが並んだ。

参加者からは「見て楽しい」「種類が多くて楽しい」「地元の食材に一手間加えたおもしろさだ」など、評価する声が目立った。今後は今回のメニューを基に、各店でアレンジを進めてもらうという。

伏木さんは「多くの種類の料理を出すので、見た目も楽しんでもらえれば、提供される店ごとに、特色や違いも出てくるはず」と期待する。田中理事も「新

神戸新聞

2017年11月15日

城崎温泉地域のプロジェクト支援



まちの概要：住民3,519人(2015国勢調査)、旅館73件
2017年の観光客数 約90万人
うち外国人観光客4.5万人(⇔2011年は約1千人)

まちの課題：労働力不足 (⇒生産性向上・働き方改革)
後継者不在を原因とした廃業旅館の発生
素泊り客増加による飲食店(夕食場所)不足
カニ以外の食材の発掘(カニの漁獲量減少、価格高騰)
地元の資源を活用した土産物が少ない
遊休土地が少なく、駐車場用地・従業員寮が不足
空き家・空き店舗の管理・活用が不十分
観光客で賑わうメインストリートの道幅が狭く危険
オフシーズン(5月中旬～7月中旬、9・10月)の集客

城崎まちづくりファンドの設立・運営



【3】 城崎まちづくりファンド有限責任事業組合

ファンド設立日	平成30年1月31日
ファンドの所在地	兵庫県豊岡市
機構と共同でファンドを組成した者	但馬信用金庫
ファンドの資金規模	60百万円(但馬信用金庫30百万円、機構30百万円)
ファンドの形態	LLP
ファンドの存続期間	平成49年11月30日まで

【地域の課題】

城崎温泉においては、老舗旅館の経営者の高齢化や後継者不足により、廃業旅館が増加している状況にある。このため、城崎温泉の町並み・風情を醸し出す「木造三階建て建物群」などの良好な景観の喪失が課題となっている。

また、近年のインバウンドの増加や国内旅行スタイルの変化に対応した泊食分離など、国際的観光地としての滞在スタイルの多様性の確保が求められている。

【ファンドの投資対象エリア】

上記の課題を踏まえ、城崎温泉エリア(兵庫県豊岡市城崎町湯島のほか、今津、桃島を含む)及びその周辺エリアにおいて、実施される民間まちづくり事業に投資する。

【投資対象事業の考え方】

城崎温泉の良好な景観形成に資する事業で、廃業した旅館や民間の遊休地等をリノベーション等により活用するなどして、宿泊施設、飲食施設、店舗等の施設を整備・運営することで地域の課題解決に資する事業を対象とする。

ゲストハウスに再生

まちづくり会社が活性化支援第一弾

城崎温泉（豊岡市）で、地元団体が共同出資するまちづくり会社「湯のまち城崎（同）」が、観光活性化の支援に本格的に乗り出す。本年度中には、金融機関と連携して観光関連の起業などに投資するファンドを設立する。第一弾として、廃業旅館を両親から引き継ぐ姉妹を全面的に支援。城崎温泉で初のゲストハウスとして再生し、来年3月20日の開業を目指す。

（井垣和子）

信金と年度内にファンド新設

城崎



支援先は「旅館若代」を再建する大石瑞穂さん（42）と吉高千尋さん（36）の姉妹。両親が営んでいた木造建築の旅館を改修して女性専用の「ジャパニーズゲストハウス城崎若代」として開業する。

旅館は、両親が約40年前に始め、父親の病気を機に昨年2月で営業を終了した。当初は継ぐ気はなく、築約90年の建物を取り壊して駐車場にする予定だった。

しかし、木造旅館が並ぶ風情ある景観が魅力の城崎。城崎温泉初のゲストハウスを開業する（右から）大石瑞穂さんと吉高千尋さん。築約90年の旧木造旅館を改修する＝豊岡市城崎町湯島

にとっては、解体は痛手。そこでまちづくり会社が、ゲストハウスへの転換を提案し、保存を促した。

素泊まりが中心のゲストハウスは、旅館と違って食事の用意や各部屋への配膳などが必要なく、経営の負担は比較的軽い。2人は、それなら自分たちでできそう」と開業に踏み切った。

まちづくり会社事務で、城崎温泉旅館協同組合理事長の芹澤正志さんは「外国人観光客の急増で、宿泊ニーズは多様化している。旅館以外の宿泊形態が増えれば、温泉地全体の魅力向上につながる」と期待する。

城崎温泉では2016年に宿泊した外国人が約4万人と、10年前の4倍以上。ゲストハウスは、価格が手ごろで、オーナーや宿泊客同士の交流スペースもあるのが特徴で、新たな客層の取り込みが期待できる。

建物の改修費などの資金を賄うため、まちづくり会社は但馬信用金庫（豊岡市）と連携。同信金が国土交通省所管の民間都市開発推進機構（東京）と共同出資して「まちづくりファンド」を本年度中に設ける。

その上で、まちづくり会社が、同ファンドなどから投資や融資を受けて、工事費の一部を負担。ゲストハウスの収益の一部を返済に充てる仕組みを整えた。

今後同ファンドを活用して廃業旅館の再生や、既存旅館の事業拡大などを後押しする方針。芹澤さんは「今回の支援をモデルケースにしたい。時代の変化に合わせて、多様なニーズに対応えられる国際観光地を目指す」と話している。

城崎若代は1人1泊5千円程度。宿泊は女性限定。予約は1月下旬から開始。「家みたいにはつとめて宿にしたい」と大石さんと吉高さん。問い合わせは湯のまち城崎（城崎温泉観光協会内）☎0796・3236603。

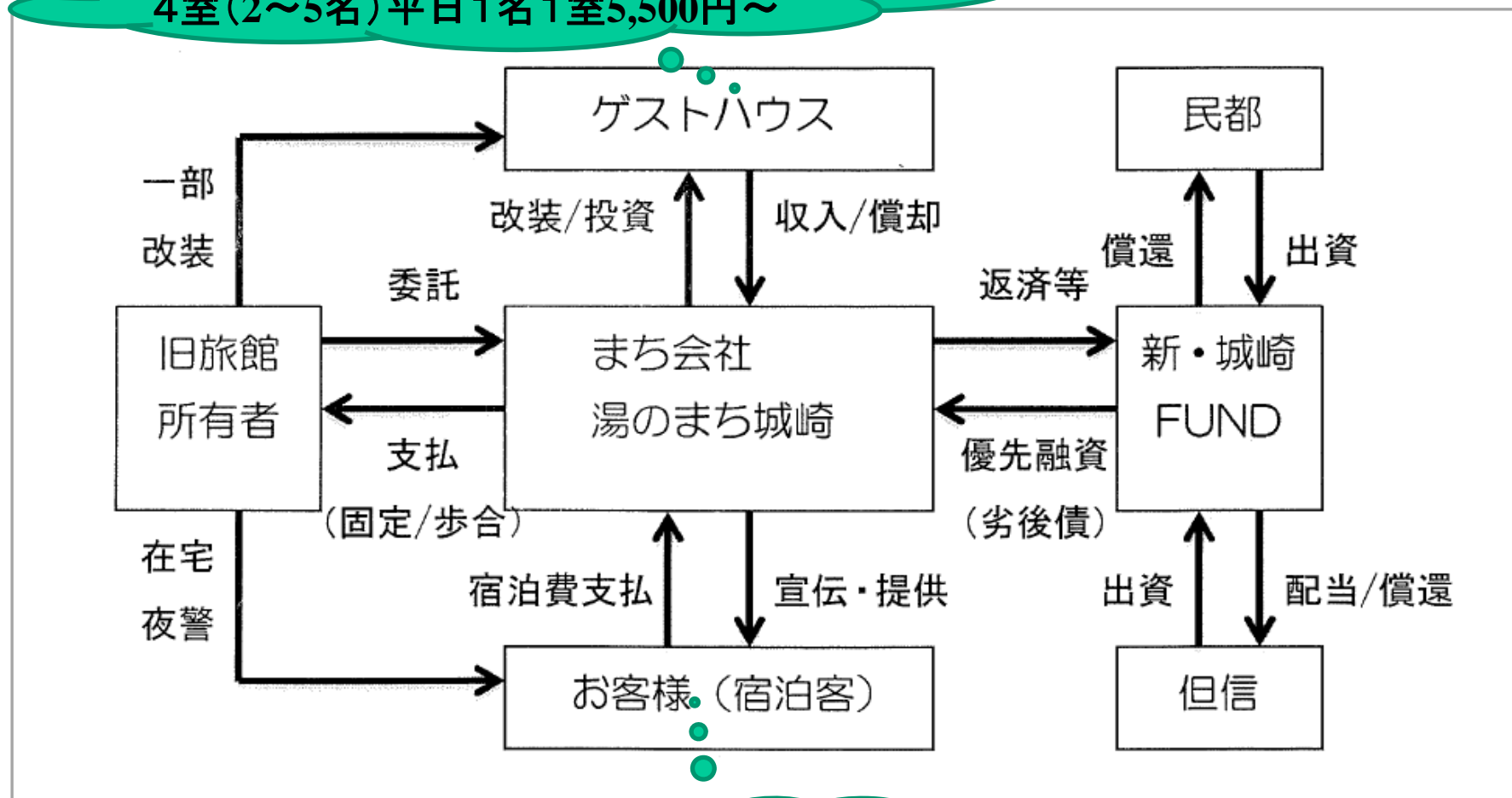
湯のまち城崎 城崎温泉の観光活性化をはじめとしたエリアマネジメントを目的に2012年7月に設立した株式会社。城崎温泉旅館協同組合や地元観光

神戸新聞
2017年12月22日

ゲストハウス事業のビジネススキーム



ドミトリー1室(7名)3,800円、個室
4室(2~5名)平日1名1室5,500円~



女性客のみ、
素泊まりのみ

本プロジェクトのキーパーソン



古田 篤司 (ふるたあつし)

まち再生プロデューサー

JISSEN.CO (ジッセンシーオー) 代表

大阪生まれ。

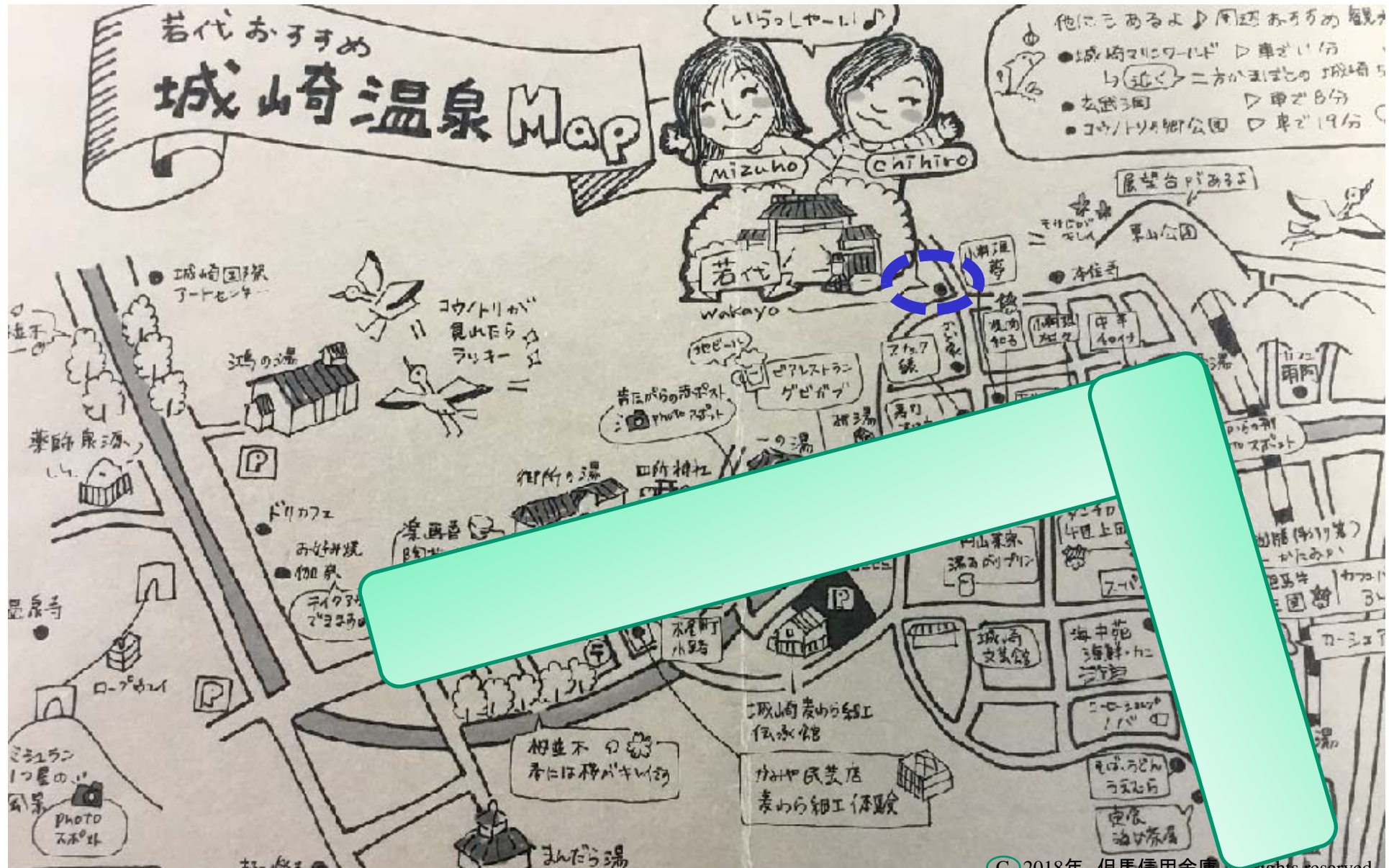
同志社大学大学院総合政策科学研究科修士課程修了



村おこし会社、まちづくりコンサルタント等を経て、神戸新開地地区にて阪神淡路大震災以降の商業地区再生に専任タウンマネージャーとして10年あまり（～2011年末まで）従事。当時「行ってはいけない」と揶揄された状態から、個性的な神戸の商業地として生き残るため「B面の神戸」というビジョンを打ち出し、20以上の事業企画を同時に駆使して、在任中に年間100万人以上の来街者増に貢献。

完全フリー独立後、神戸漢川地区、兵庫県城崎温泉地区、岐阜市柳ヶ瀬地区、沖縄石垣市まちなか地区などにて、個性的な商業地や観光地の再生・活性化の仕組みづくりやリーディングプロジェクトの構築を行っている。アドバイス先、講演等多数。インバウンド関連の取り組みや個店の事業アドバイスにも積極的に取り組んでいる真っ最中。

ゲストハウスが作った城崎温泉MAP



「おもてなし規格認証」導入支援



中小企業の「儲かる」が見つかる！
HANJO HANJO ハンジョハンジョ

お知らせ 第1 HANJO HANJO リニューアル

HANJO ニュース インタビュー イベントレポート コラム おすすめ便利ツール 中小企業を支える専門紙ニュース

ビジネスのヒント IT業務効率化 地域創生 働き方改革 人材採用 マッチング 生産性向上 社内コミュニケーション インバウンド

[PR]「おもてなし規格認証」で会社が変わる！地域が変わる！／城崎編5～但馬信用金庫～

シリーズ「『おもてなし規格認証』で会社が変わる！地域が変わる！」では、おもてなし規格認証で「変わる」地域と会社（事業所） ...

おもてなし規格認証

2018年3月22日



[PR]「おもてなし規格認証」で会社が変わる！地域が変わる！／城崎編4～西村屋～

シリーズ「『おもてなし規格認証』で会社が変わる！地域が変わる！」では、おもてなし規格認証で「変わる」地域と会社（事業所） ...

おもてなし規格認証

2018年3月22日



国内最大の産地 豊岡の鞆産業支援



国内最大の鞆の産地として、業界をあげて積極的な活動を行なっている。

豊岡の鞆産業:鞆出荷額 国内1位
(経済産業省調べ)



更なる飛躍のため、今治タオル(豊岡鞆と同時期に「地域団体商標」登録。佐藤可士和氏のディレクションもあり、現在、今治タオルの市場認知度は8割を超えている)をベンチマークとし、当庫がコーディネートする形で、一昨年春に鞆協会・市役所と合同で今治視察を実施。

視察にあたっては、愛媛信用金庫様にもご尽力いただいた。一昨年秋には、今治タオル工業組合理事長らを当地に招き、勉強会を開催。

当庫ではアパレルに精通した専担者を採用し、鞆各社の販路開拓や商品開発、輸出等について支援を実施。

19. 「プロフェッショナル人材事業を活用した豊岡の靴業界のブランド力向上および販路開拓等の支援事業」 (但馬信用金庫)

1. 取組の概要

- プロフェッショナル人材事業を活用し、アパレル業界の大手企業にてブランド事業戦略の立案や店舗運営などに携わっていた人材を当金庫職員として採用。当該職員を中心に、豊岡の基盤産業である靴業界のブランド力向上及び販路開拓等を積極的に支援。

2. 取組を始めるに至った経緯、動機等

- 豊岡市等が実施している「トヨタカ カバン アルチザンアベニュー事業」は、豊岡靴業界のブランド化等を推進し、大きな成果を出している。当該事業の中心人物が退職することになり、当金庫の提案でその後任者をプロフェッショナル人材事業を活用して募集したところ、全国から100人を超える応募があったが、条件面や採用専任者がいなかったため適時適切なフォローができず、採用に至らなかった。このため、「トヨタカ カバン アルチザンアベニュー事業」の推進力の低下が当地の靴業界へ与える影響を勘案し、平成29年6月、当金庫自らがプロフェッショナル人材事業を活用して豊岡の靴業界をリードする人材を1名採用。

3. 具体的な取組内容

- 新たに採用したアパレル業界に精通した職員を中心に、取引先に関わらず豊岡の靴産業への支援として、当金庫が、靴業界の強み・課題等を把握・分析、ブランド力向上・販路開拓・新商品開発に資する勉強会やビジネスマッチング等の各種事業に取り組むとともに、必要に応じた資金面での支援も検討。
- 今後、市と連携した靴業界の活性化策や他の地域金融機関と連携した販路開拓支援を検討。
- ひょうご専門人材相談センターと連携し、靴業界の従業員向けにマーケティングの勉強会を開催予定(厚生労働省の事業を活用)。

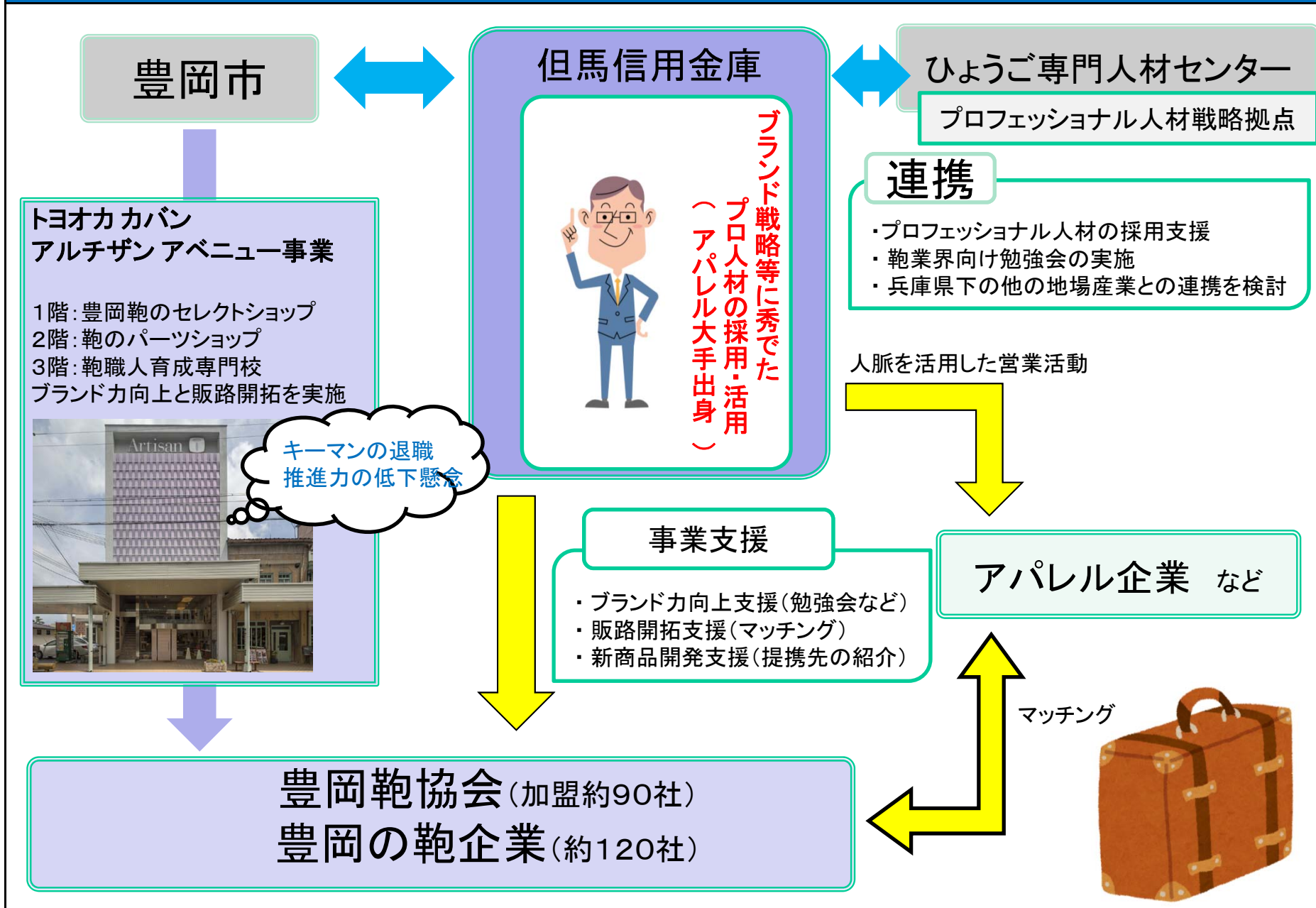
4. 実施にあたり工夫した点(金融機関の役割・推進体制面・PDCAサイクル面等)

- 当該職員の採用にあたり、プロフェッショナル人材戦略拠点のマネージャーがアパレル業界に精通していたこともあり、どのような人材を採用し、どのような活動に従事させるべきか、密な意見交換を行なった。
- 事業の企画立案にあたっては、豊岡市の靴業界の団体・企業のほか、各地のアパレル会社とも意見交換を行い、川上から川下に至るまで業界の現状や課題、ニーズなどを具体的に把握した。

5. 取組の成果(取組中の場合は目標値・KPI等)

- 平成29年6月下旬に、当該職員が中心となり靴組合の経営研究会にて各社が取り組むべきブランディングのあり方について講義。その中で、学生の視点・アイデアを取り入れた新商品開発に関心を示したメーカー1社にファッション関連イベント等を主催する学生団体を紹介。両者が具体的な商品開発に着手。現在、サンプルを完成させ、東京等で開催する1,000人規模のファッションショーに出品が決定。
- 当該職員の前職の人脈を活かし、東京や大阪の複数のアパレル会社に営業し、靴のOEM発注ニーズを発掘。豊岡のメーカーに紹介し、豊岡のメーカー5社が商談成立。他にも数社が商談中。

6. スキーム図等(図表・写真等も必要に応じて貼付)



きっかけとなった戦略マネージャー



戦略マネージャー

亀井 芳郎（中小企業診断士）

＜皆様へ一言メッセージ＞

コンサルタント、中小企業診断士として中小企業の経営改善を支援する立場にあります。その経験で一つの大きな課題を感じていました。

それは、戦略策定・課題解決のためのアクションプラン策定後の実行に問題があり、計画が進まないことです。この原因は専門人材が不足している事です。

この人材問題解決のお手伝いをするのが「ひょうご専門人材相談センター」の役目ですので、中小企業の経営者の皆様のご相談をお待ちしています。

1976年	同志社大学卒業後、服飾品の専門商社に勤務し海外ブランドの展開を通して、ブランド開発・育成に取り組み、営業部長、営業企画部長、企画開発部長を歴任。
1999年	中堅小売会社に入社し、紳士服業界の先駆けとなったツープライスストア「The@SuperSuitsStore」を立ち上げ、多店舗化を行い、第二創業を実現。
2002年	低迷期に社長に就任。就任後は事業再生に取り組み、V字回復を達成。
2005年	目標であったIPO（大阪証券取引所ヘラクレス）を実現する。
2006年	社長を退任し、経営コンサルタントとして独立。

地域プロジェクト支援本格参入のきっかけ



■豊岡市中心市街地活性化基本計画策定委員会↓

↓

市では、平成22年7月12日、中心市街地を構成する商業者や地権者、市民、民間企業などの関係者で「豊岡市中心市街地活性化基本計画策定委員会」を設置しました。↓

全11回に及ぶ意見交換などを踏まえ、計画の素案について、市へ報告いただき、このほど市として計画を策定しました。↓

豊岡駅通りを中心とした市街地は、人口減少と高齢化の進展、商店街の機能低下により、少しずつにぎわいが失われてきており、市街地の空洞化が進行しています。↓

また、市街地において、健康増進施設や駅前広場整備、新庁舎建設事業をどう結び付け、今後のまちづくりを行うのかも重要な課題となっています。↓

そこで、高齢者を含めた多くの方が暮らしやすく、まちの個性や歴史、伝統を生かしながら「歩いて暮らせるまちづくり」に向け、中心市街地のビジョンとプログラムを共有し、活性化計画の策定に取り組みました。↓

豊岡市 中心市街地エリア



中心市街地基本計画 骨子



▽中心市街地活性化のメインテーマ↓

「「豊岡」の真ん中で営み続ける ～豊岡を実感する～」

↓

▽基本方針・目標↓

- 1) 住まう(目標:まちの定住人口の確保)
- 2) 集う(目標:まちに来る人を増やす)↓
- 3) 商う(目標:まちにお金が落ちる)

↓

○策定委員会の計画素案を市長へ報告↓

▽日時：平成23年7月12日(火)午後4時30分～午後5時00分↓

▽会場：市長室↓

▽内容：策定委員会がまとめた計画↓
素案について、市長へ報告↓



中心市街地の起爆剤の一つ 鞆新拠点

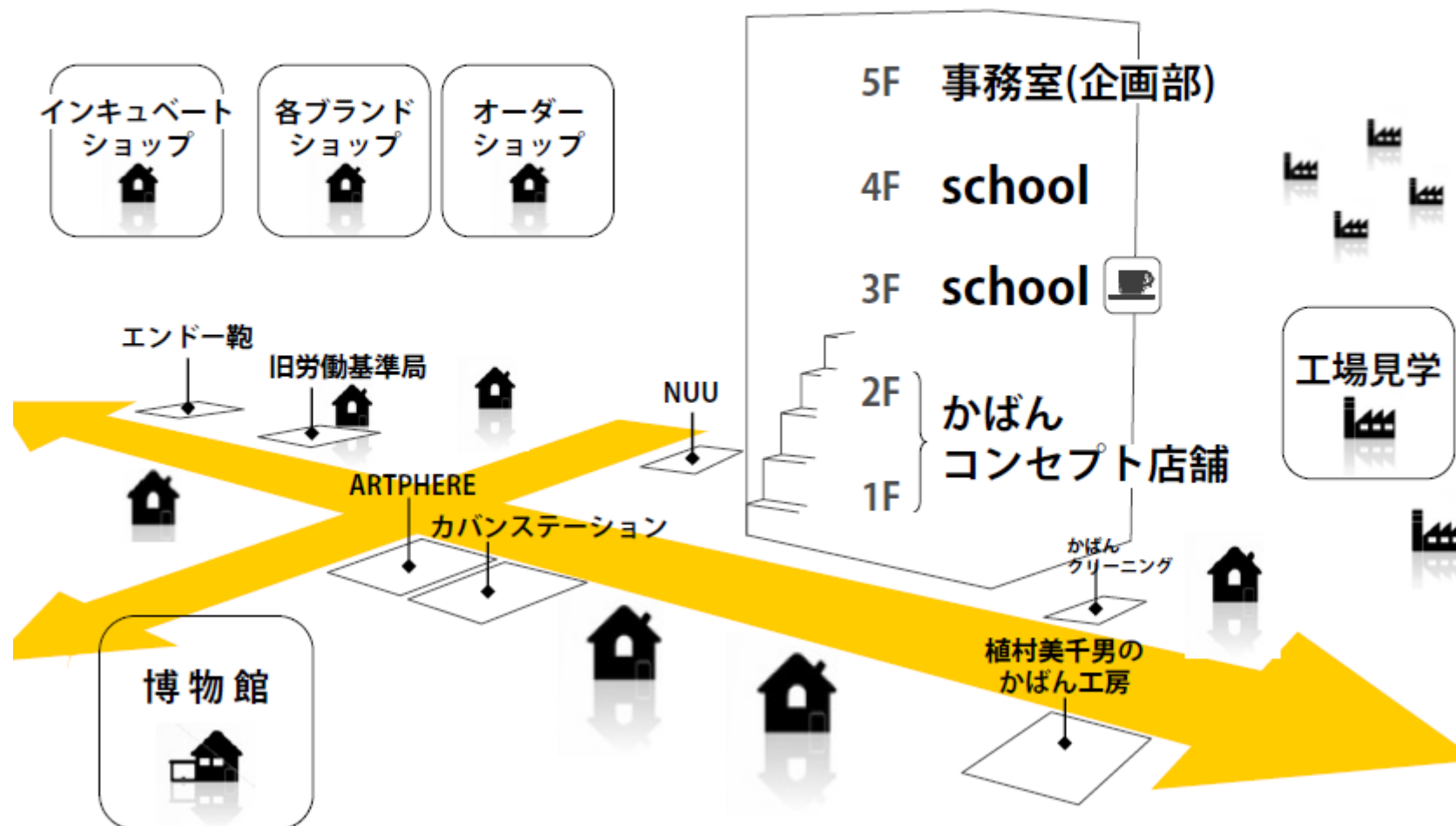


「かばん新拠点」のイメージ

KABAN Flagship Shop



**TOYOOKA
SCHOOL OF KABAN MAESTRO**



新拠点トヨタカ カバン アルチザンアベニュー



2014年4月オープン



GOOD DESIGN AWARD | グッドデザイン賞

受賞対象名	かぼんを核とするまちづくり [トヨオカ カバン アルチザン アベニュー]
事業主体名	豊岡まちづくり株式会社
分類	都市づくり、地域づくり、コミュニティづくり
受賞企業	豊岡まちづくり株式会社 (兵庫県)
受賞番号	14G141208
受賞概要	2014年度グッドデザイン賞受賞概要

受賞対象の概要 ※掲載している情報は、受賞当時の情報のため、現在は異なる場合があります。

概要 国産鞆の最大の生産地である兵庫県豊岡市に新設された販売と教育を軸にした鞆の拠点施設を中心とした地域活性化プロジェクト。歴史豊かな地場産業である鞆を様々な側面において、いかに地域の魅力的な地域資源へと具現化し情報発信するかが重要である。本事業においては企画から3年にわたり鞆企業や行政、地元商店街、周辺観光地と密接に連携しながら産地ならではの手法で情報発信、空間整備、人材育成、商品開発を同時に考え拠点施設を中心にまちづくりデザインに展開しようとしている。

プロデューサー 豊岡まちづくり株式会社 マネージャー 林健太

ディレクター 株式会社LEM空間工房 代表取締役 長町志穂

J.BOOK株式会社

林健太

〒105-0022

東京都港区海岸1-11-1ニューピア竹芝ノースタワー14F

Tel : 080-1442-1832

デザイナー <建築デザイン>レイジ・ヴェラーティ+長町志穂<鞆デザイン>森田陽子+株式会社 由利+エンドー鞆 株式会社+株式会社
ウノフク +松下ラゲッジ 株式会社



出発点としての宵田商店街活性化支援



2005年 当庫本店前の宵田商店街が「カバンストリート」として活動開始

当時、全国でも商店街活性化と地場産業振興の両方を狙った事業は珍しかった

2009年「新・がんばる商店街」認定

地元の特産品である「かばん」をアイテムとした商店街活性化!!

！ここがポイント

商店街を「カバンストリート」と位置づけ、ギャラリー「カバンステーション」を拠点にかばん産地豊岡の情報発信を行っている。



宵田商店街「カバンストリート」

【取り組みの概要・経過】

地元の新産業と協力し、平成17年、商店街を「カバンストリート」として位置づけた。アーケードに「カバンストリート」の看板を設置するなど、積極的にPRしている。

同年、ギャラリー「カバンステーション」を商店街振興組合の運営でオープンした。これは、商店街の若手が中心となって検討を重ねたものである。このギャラリーを情報発信元として、かばんのPRが行われている。

ここでは、誕生日別の365種類のトートバッグ（「365バースデートート」）、近郊に結婚温泉があることにちなんで旅行鞆とコラボレートして制作した「湯めぐりバッグ」といったユニークなオリジナル商品の販売も行っている。また、かばんの展覧会などのイベントも行われている。

また、商店街の既存の商店の一角を利用して、その商店の取り扱っている商品や雰囲気マッチしたかばんを展示し、販売も行っている。

そのほか、自動販売機でオリジナルのかばんを販売するなど、他に例を見ない活動も行っている。

【取り組みの背景】

宵田商店街は、かつては多くの商店でにぎわっていた商店街であるが、近年、モータリゼーションの進展や近郊の大型小売店との競合などにより、活気がなくなっていた。

このような中で、現在、豊岡の特産品である「かばん」に着目しての取り組みが行われている。

この取り組みは、有数のかばん産地でありながら、全国的にはあまり知名度のない「かばん産地豊岡」を商店街がPRすることにより、観光客を商店街に誘導し、活性化へつなげたいという思いから始まった。

カバンストリート(宵田商店街)活性化支援



2014年アルチザンアベニューオープン後、カバンストリートの活動も活性化(鞆・アパレルの新規出店が5店舗、第2創業が1店舗)



カバンストリート(宵田商店街)活性化支援



2016年からは、兵庫県・豊岡市も交えた、“まちなか再生協議会”も立ち上げ、活動中

記者発表 (発表→資料配布)				
月/日 (曜日)	担当課 (班)	TEL (内線)	発表者 (担当班長)	その他 配布先
6/20 (火)	県土整備部まちづくり局 都市計画課	078-362-9296 内線4666	都市計画課長 佐々木 貴弘 (谷川 順彦)	但馬県民局
	産業労働部産業振興局 経営商業課	078-362-3326 内線3563	経営商業課長 大久保 和代 (三宅 堂之)	

豊岡市宵田・元町地域における「宵田・元町地域まちなか再生計画」の策定について
(「商店街の活性化とまちの再整備による賑わいのまちづくり事業」)

県が市町と連携して平成27年度から実施している「商店街の活性化とまちの再整備による賑わいのまちづくり事業(略称:商店街の活性化とまちの再整備事業)」のモデル地域に指定した宵田・元町地域にて、地元商店街が主体となり、平成28年7月7日に「まちなか再生協議会」(以下「協議会」という。)が設立されました。

2 宵田・元町地域まちなか再生計画の概要(案)

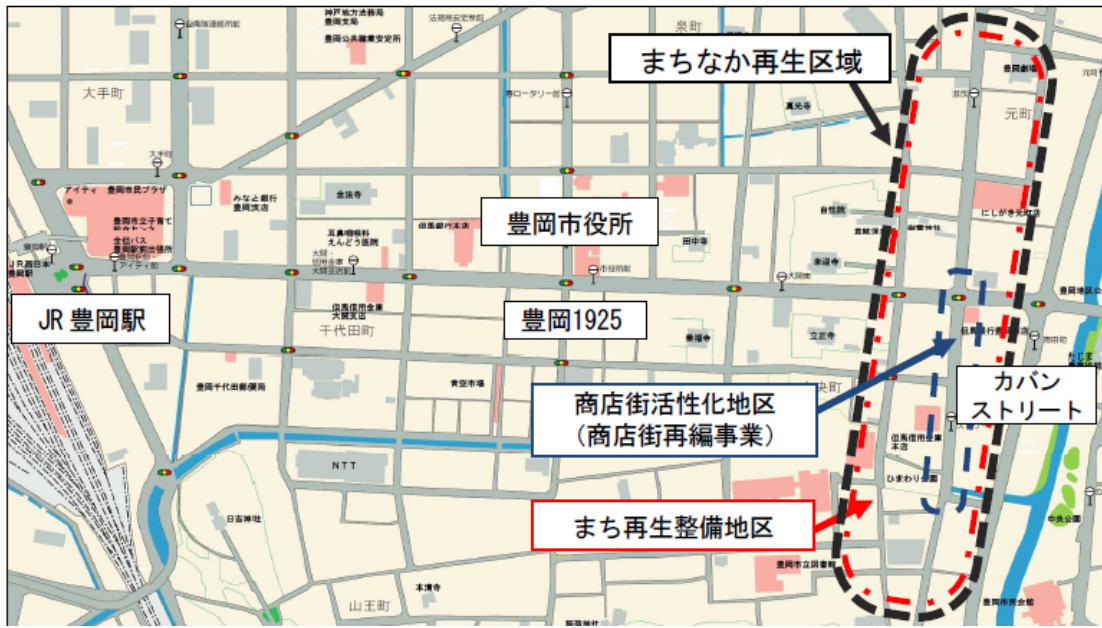
(1) 作成主体: 宵田・元町地域まちなか再生協議会 (H28. 7. 7 設立)

- ・会長: 衣川克典 (宵田商店街振興組合 理事長)
- ・会員: 宵田商店街振興組合員、但馬信用金庫本店役員 他
- ・オブザーバー: 一般社団法人ノオト
- ・アドバイザー: (株)レム空間工房 代表取締役 長町志穂
(有)スタジオ・カタリスト 代表取締役 松原永季

カバンストリート(宵田商店街)活性化支援



■計画エリア



■整備イメージ 【現況】



中心市街地のもう一つの起爆剤 豊岡1925



2014年4月オープン



中心市街地のもう一つの起爆剤 豊岡1925



『地域活性化にもつながるスイーツの魅力』 ～スーパーパティシェ 辻口博啓のこれまでとこれから～

辻口氏はクープ・ド・モンドをはじめ各種の世界大会に日本代表として出場し、数々の優勝経験を持たれており、3月からスタートしたNHK朝の連続テレビ小説「まれ」では製菓指導を務めておられます。料理の鉄人ではパティシエ初の勝利も獲得されています。現在、モンサンクレール（東京・自由が丘）をはじめ、コンセプトの異なる12ブランドを展開しており、2014年には初の海外店舗をソウルにオープンされました。素材にこだわり、スイーツを通じた地域振興に取り組むほか、砂糖不使用のチョコレートなど健康に配慮したスイーツも開発なさっています。石川県観光大使、三重県観光大使、金沢大学非常勤講師、産業能率大学客員教授



平成 27 年 4 月 18 日（土） 主催：たんしん経営塾 08 会・但馬信用金庫

二つの拠点のシナジー創出プロジェクト



新たに食のプロジェクトがスタート

豊岡の2つのアルチザン（職人）

<カバンストリート>

KABAN ARTISAN

(カバン・アルチザン)



<豊岡駅通商店街>

LOCAL FOOD ARTISAN

(地域の食のアルチザン)



×



「2つの神」に由来した、
「2つのアルチザン（職人）」が、
「2つのストリート」に。

アルチザンが息づくまち 豊岡。

本プロジェクトのキーパーソン



地域ビジネス実践者
中原大輔 (なかはらだいすけ)

地域プロデューサー、ササヤマルシェ実行委員長

担当：地域ビジネスプロデュース

紹介

岐阜県可児市出身。大手ITメーカー勤務から2010年より篠山市にて起業、初年度より城下町の町なみを活かしたイベント「ササヤマルシェ」をスタート。毎年30,000人を超える来場者を集める。その後、八百屋、オーガニックカフェの経営を経て、2015年より古民家再生を手掛ける「一般社団法人ノオト」に参画しながら、フリーランスのプロデューサーとして活動中。

(一社)ノオトとの連携



(一社)ノオトとの連携



NOTEは日本人が捨ててきたものを拾い集め、再生する企業です。

NOTE

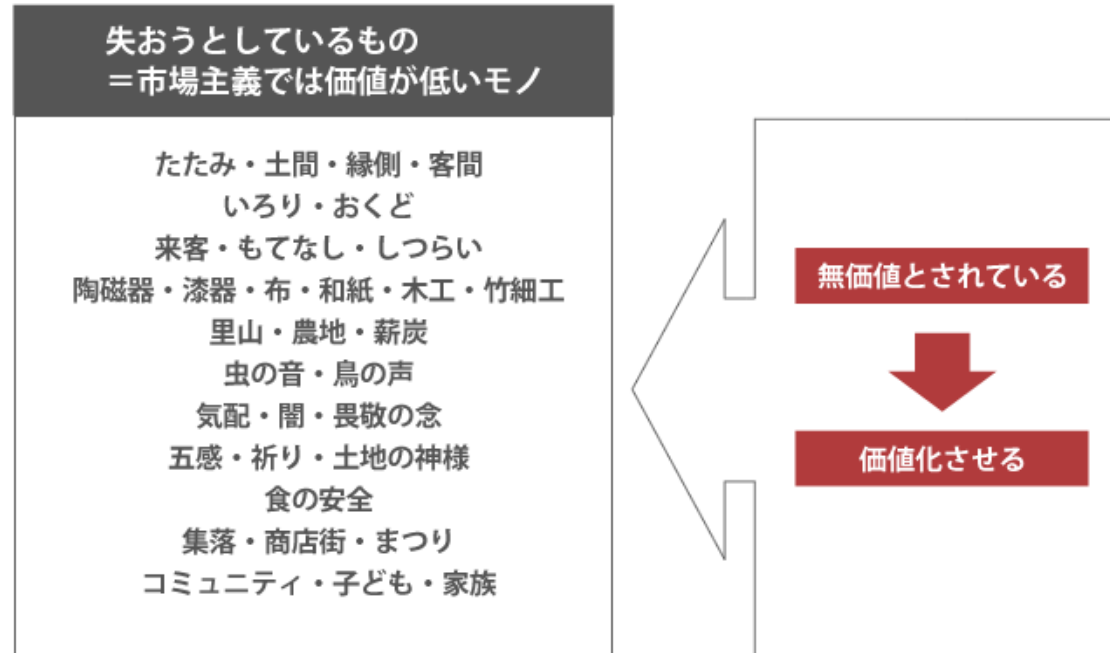
一般社団法人ノオト



NOTEの古民家マネジメント

「金銭的な利益」を運用する不動産投資・運営ではなく、「日本のココロ(宝物)」を次世代へ繋げるとい
う利益を追求したマネジメントです。

“なつかしいみらい”それは、日本人が高度経済成長の中で、捨ててきたモノの中に多く存在します。こ
れらに、再び光りを当て、輝きを取り戻す事。それらを理念に再生マネジメントを実施いたします。



(一社)ノオトとの連携



平成 26 年度 地域づくり活動支援体制整備事業

募集要領

■応募受付期間

平成 26 年 4 月 2 日 (水) ~ 平成 26 年 5 月 1 2 日 (月) 18:15 まで

■問い合わせ先

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2
国土交通省国土政策局地方振興課 駒井、高橋、武林

連絡先 Tel: 03-5253-8404 (内線 29-583)

E-mail: komai-m237@mlit.go.jp

平成 26 年 4 月
国土交通省

4. 地域づくり活動支援体制整備事業

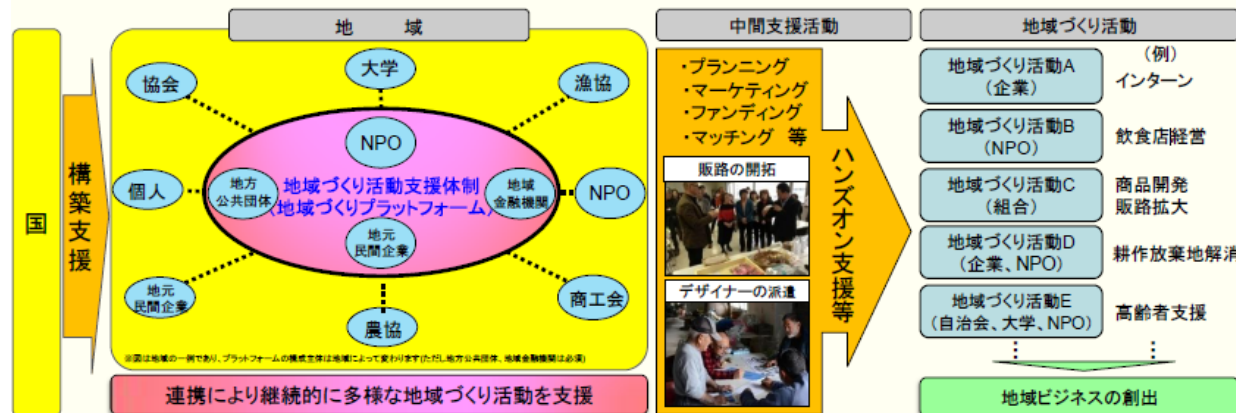


背景・目的

地方中小都市を中心とした地方部における地域の活性化を図るため、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした特産品開発、観光開発等を目的とした、多様な主体による事業型の地域づくり活動(地域ビジネス)等を生み育てる仕組みの構築を支援する。

実施内容

地域ビジネスを生み育てるため、現場の活力や知恵を結集する仕組みとしての地域づくり活動支援体制(地域づくりプラットフォーム)の構築及びそのプラットフォームが行うハンズオン支援等の中間支援活動に対して支援を行う。



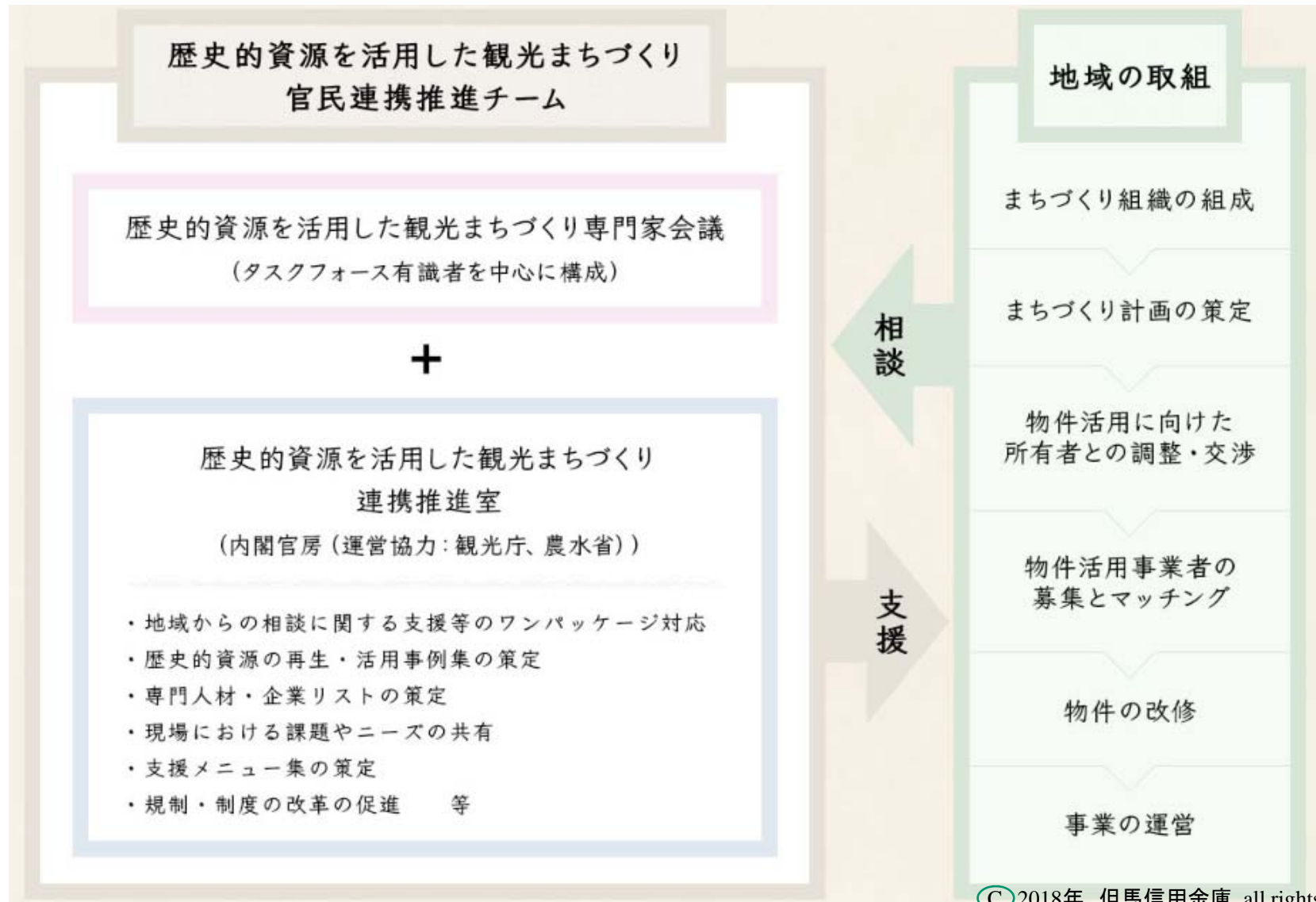
効果

地方における地域資源を活かした多様な主体による新たな地域ビジネス等が創出され、地域の活性化が図られる。

5

内閣官房 歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室

2020年までに全国200地域での取組を目指し、まちづくりの異業種からなるワンセットの専門家チームが伴走支援を開始します。



歴史的資源を活用した観光まちづくり専門家会議構成員一覧 (敬称略、五十音順)

14名の構成員から当地に関連する3名を抜粋



きんのゆきお
金野幸雄

(一社)ノオト 代表理事

兵庫県職員、篠山市副市長を経て現職。限界集落や農村地域の再生、歴史的建築物活用などに取り組む。篠山市では、40軒を超える古民家の再生を行うとともに、起業家や事業者を誘致し、ホテル、レストラン、カフェ、工房などが立ち並び、魅力的な城下町等の街並みを実現。近年は、地域金融機関やREVICとも連携し、取組を全国に拡大。



さいもとけんじ
才本謙二

才本建築事務所代表取締役

京都府生まれ。兵庫県内の設計事務所勤務後1989年に独立。現在は丹波篠山を中心に活動中。人・風土・文化を大切に、古民家再生を13年で249物件手がけた実績を持つ。ヘリテージマネージャーとして指定・登録・伝建地区の文化財修理、NPO法人理事として12年前から市民と協働して古民家再生プロジェクトを主導。また、数多くの古民家を用途変更(コンバージョン)し、安全性を確保しながら現行法規との整合性を追求。合わせて伝統工法に携わる若手職人グループを立ち上げた。



たりきのじゅん
他力野淳

バリューマネジメント(株)代表取締役

(株)リクルート退職後、2003年にホテルや結婚式場等の施設再生を目的として創業、2005年2月にバリューマネジメント有限会社として法人化。2006年7月に商号変更し、現職。

「文化を紡ぐ」をコンセプトに、文化財など歴史的建造物をレストラン、結婚式場、宿泊施設等に利活用する事業を展開し、篠山城下町ホテル

「NIPPONIA」をはじめ、多くの古民家を活用した宿泊施設を運営している。志の高いベンチャー企業の経営者を表彰する「ジャパンベンチャーアワード2016日本文化再生特別賞」受賞。

© 2018年 但馬信用金庫 all rights reserved

湯村温泉のプロジェクト支援



湯村(ゆむら)温泉と料理長



湯村温泉は需要量に比べて湧出量が豊富で、泉質も優れた県北西部の温泉地。現在、10数軒の旅館が営業しており、年間約23万人が来訪

当庫は信金中央金庫のバックアップを得て、2014年7月から毎年、他地域の信用金庫に対し、職員旅行や年金受給者向け旅行の誘客活動を実施。
これまでに1万7千人を超える誘客成果をあげている。

湯村温泉の中核旅館の井上料理長(現代の名工)の魅力発信に協力すべく、以前、同氏が「料理の鉄人」で対決した四川飯店の陳建一氏を招いたイベントも当庫が開催。昨年5月には陳建一・建太郎親子を招いて開催

湯村温泉への誘客支援



新温泉町の魅力を満喫して、計約千人の観光客が訪れている。枚方信用金庫（同市）で年金などを利用する「友の会」の会員たちで、同日から約1カ月間、1泊2日で町内の漁師町を散策したり、湯村温泉の旅館に泊まったりして、新温泉町の魅力を満喫する。

湯村温泉の観光協会や旅館飲食組合、但馬や鳥取の信用金庫でつくる湯村温泉会議が、全国各地の信用金庫を通し、友の会会員の来訪を呼び掛けている。

16日にはバス2台計57人が訪れ、同町内の飲食店で昼食。同町の浜坂地区を流れる味原川沿いに整備

**新温泉の魅力 満喫して
枚方から12回に分け1000人観光**

地域の特徴について説明を聞きながら歩く、枚方市からの観光客ら＝新温泉町浜坂

2018.4.17 神戸新聞

案内などにも取り組む「味原川清流会」の岡部長一會長らのガイドを聞いた。同川を境に、畑などの多い砂地と、水田が並ぶ泥地に分かれているといった説明を聞くと、参加者たちは感心したようにうなずいていた。

一行はこのほか、同町の浜坂先人記念館「以命亭」を見学したり、まち歩き案内所「松籟庵」で、蓄音機による音楽鑑賞などを楽しんだりした。17日には、香美町の展望施設「空の駅」や鳥取市の鳥取砂丘などを訪れるという。

（小日向務）

神戸新聞
2018年4月17日

湯村温泉への誘客支援





町内初の「道の駅」開設支援

町からの委託を受け、信金中央金庫のバックアップの下、町内で初めて開設される道の駅のソフト事業を実施。
(地域振興プラン策定や町内の旅館や飲食店で提供する新たな名物メニューの開発など)

雑誌「信用金庫」

2017年6月号より一部抜粋

道の駅 および 特産品開発を通じた地域振興事業について

「全国の道の駅の3分の2は赤字である」とこの言葉は、それぞれの道の駅の事情はあるものの、経営が非常に難しいことを表している。一方で「道の駅ブーム」は続いており、その数は全国で1100を超える。兵庫県美方郡新温泉町では高規格道路の延伸をきっかけに、町内で初めて道の駅がオープンすることになった。本稿では、当金庫が町町より地方創生加速化交付金事業の一部を委託し、自治体と二人三脚で地域創生を進めてきた「平成28年度 道の駅および特産品による地域振興事業」の取り組みについて紹介する。

1 新温泉町の道

新温泉町は、兵庫県北西部に位置し、西は鳥取県、北は日本海に面する人口約1万5千人の町である。地方創生をスピーディーに推進するため、地域創生課を設置している。今回の事業委託にあたっては、その実績および体制が見込まれたものであると考える。

以下に、受託した道の駅に関する3つの事業を解説する。

2 新しいレイト・モノの流ねによる地域振興プラン策定事業

新温泉町が建設する道の駅は、浜坂IC周辺の交通量の動向に大きな影響を受ける。そこで、新しいレイト・モノの流れによる地域振興プラン策定事業では、山陰近畿自動車道延伸、全線開通等のフェーズに分け、町内の交通体系の変化を予測した。その手法は、以下①②③④のとおり。なお、本事業に関しては信金中央金庫と業務提携を交わし、取り組んでいる。

① 交通量調査
現状を把握するために、当金庫職員を含む12名により、道の駅建設予定地など、町内4か所の交通量調査を実施。道路交通センサスや兵庫県庁の資料等を複合的に分析し、1日平均で約6千台の交通量があることが判明した。また、車のナンバーも合わせて調査したところ、道の駅立地予定地の前面道路を主に通行しているのは、地元住民であることも確認できた。

② 地域住民アンケート調査
町内の店舗で来店顧客・得意先を訪問顧客を対象に実施。現時点での近隣の中核都市（鳥取市内・豊岡市内）や京阪神方面への利用ルート、および全線開通による利用ルートの変化を調査した。

③ 来街者アンケート調査
同町内の観光施設、観光客を対象に実施。観光客の行動パターンや滞在時間などを把握し、観光客のニーズを把握した。

④ 他地域事例の収集
開業予定の道の駅は、通行料無料の高規格道路のIC付近に位置している。そこで同じような条件の富山県・石川県・広島県・三重県・大分県・宮崎県の道の駅を訪問し、高規格道路開通の影響等の情報を収集した。その結果、経営が厳しい施設

「記」のロケ地として脚光を浴びた情緒ある温泉地だが、時代の流れとともに新たな魅力の創出が課題となっている。一方で、松葉ガニ・但馬牛・ホテルイカ・ハタハタなど、多くの食資源に恵まれた国内有数の地域である。このようなまちには、高規格道路（山陰近畿自動車道・鳥取豊岡宮津自動車道）の延伸、「新温泉浜坂インターチェンジ（以下、浜坂IC）」の設置が決まり、平成29年12月上旬の供用開始に向け建設が進められている。自動車道は、当面一部の開通のみとなっているが、将来的に全線開通となれば京阪神への交通アクセスは格段によくなり、町民や観光客の交通ルートが大きく変化する可能性がある。

さらに、浜坂IC近隣に「道の駅 山陰海岸ジオパーク 浜坂の郷」が本年秋にオープンする予定で、同町はこの変化に地域経済の活性化の可能性を見出すうとしている。合わせて国内有り施設、現在、将来の利用ルートを聞き取った。地域住民および観光客への調査からは、将来的に道の駅周辺の交通量は大きく増加しない可能性があるということが判明した。

の特徵は、近隣の道の駅などとの差別化が図れておらず、「道の駅」ブランドに依存した経営体質となっている。一方、特産品を活かしたメニューの開発、広域連携体制の構築、質の高い社内教育を行っている道の駅は良好な経営を行っていた。

冒頭で述べたように、全体の3分の1の道の駅しか利益を出していないと言われている。当地も前述の調査を行った結果、将来的に交通量の大増大増加は期待できず、むしろ通り抜けになる可能性があるということが判明した。そこで、①②③④の道

数の地域資源とのイノベーションを起こすことをめざした地方版総合戦略を策定し、交付金による地域振興事業を進めている。当金庫では、22年頃から湯村温泉に対するコンサルティンクや、全国の信用金庫に年金旅行誘致に向けたキャンペーン活動を行っており、約2万人の誘客につなげてきた。また、28年6月

「信用金庫」2017・6

大切にしている言葉



優先順位の決定には、いくつかの重要な原則がある

第一に、過去ではなく、未来を選ぶ

第二に、問題ではなく、機会に焦点を合わせる

第三に、時流に乗るのではなく、独自性を持つ

第四に、無難で容易なものではなく、変革をもたらすものを選ぶ
すべて分析ではなく、勇気に関わるものである

(P・F・ドラッカー)

自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ

(株式会社リクルートの旧・社訓)

皆さんと連携したいこと



当庫の営業エリアは靴やちりめん(絹織物)の産地です。

こうした分野に関連のあるお客様とお取引のある金融機関様と
販路開拓支援・新商品開発支援の面で是非、連携したいと考えております。

地域プロジェクト支援に関心のある金融機関様の中で、支援事例や
ノウハウの共有に関心のある金融機関様と連携したいと考えております。

個別企業へのコンサルティング業務でのノウハウ共有に関心のある
金融機関様と連携したいと考えております。(サービス業などの生産性向上
支援の具体策やM&Aを含む事業承継支援分野の具体策など)

当庫へ旅行(観光に加え、経営者の会などの研修旅行)にお越しただける
金融機関様を募集しております。

特に4月～7月上旬、9月・10月にお越しただけるとうれしいです。

訪問の目的や予算、人数等をご連絡いただければ、当庫が考える
最適なプランをいくつかご提案させていただきます。